1. 水色地山水楼閣小鳥文様紅型衣裳
木綿　19世紀　丈134.0㎝
2. 紺地紋入鶴亀松竹梅文様紅型芝居幕
苧麻　19世紀　175.0×200.0㎝
3. 白地菊桐雪輪文様藍型衣裳（部分）
桐板（トンビャン）　19世紀
4. 花色地稲妻に松鶴桜鳥文様紅型子供着（部分）
木綿　19世紀

1	2
3	4	5
6	7	8

5. 水色地斜格子に梅楓文様紅型衣裳（部分）
木綿　19世紀
6. 染分地雲に花丸文様紅型衣裳（部分）
絹　19世紀
7. 紺地菖蒲に流水桜文様藍型衣裳（部分）
木綿　19世紀
8. 白地霞枝垂桜牡丹文様紅型衣裳（部分）
木綿　19世紀

黄色地亭に牡丹松梅文様紅型胴衣（部分）　木綿　18−19世紀

沖縄復帰40年記念　特別公開

琉球の紅型

2012年 9月4日(火) − 11月24日(土)

月曜休館（祝日の場合翌日休館）／10:00-17:00（入館16：30迄）／一般1,000円 大高生500円 中小生200円／東京都目黒区駒場4-3-33／TEL 03-3467-4527／京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分／西館公開日（旧柳宗悦邸、入館16：00迄）：会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜日

日本民藝館
http://www.mingeikan.or.jp/

松竹梅霞に亭文様紅型型紙
19 世紀　55.0 × 41.8 ㎝

風呂敷製作風景　那覇
昭和 14（1939）年　撮影・坂本万七

紅型製作風景　那覇
昭和 14（1939）年　撮影・坂本万七

日本民藝館は沖縄とは縁が深く、沖縄の染織の優品を持つ美術館として知られています。

当館創立者の柳宗悦は学習院高等学科時代に、同級生の尚昌侯爵の知遇を得て紅型の美しさを知りました。『工藝』第49号（昭和10年）の挿絵には紅型3点を掲載して日本の型染中で最も美しいものと評価し、日本民藝館開館から間もない昭和13（1938）年1月には「琉球染織」特別展観において、紅型や織物などを展示しました。そして同年暮れには琉球の工芸を学ぶために長年待ち望んだ沖縄に渡り、沖縄の文物に触れ、その感動を雑誌『工藝』での特集や著作「琉球の富」等で伝えています。一方、柳に同行した染色家の芹沢銈介や岡村吉右衛門は首里に長期滞在し、当時僅か数軒の職人が仕事をつないでいた紅型を調査研究し、そこから学んだ染物を本土で制作しながら、紅型の琉装から和装への移行に力を貸しました。

柳宗悦は「紅型を見ると模様の美しさに打たれ、其の不思議さに打たれる。型染で是程までに優れたものが他にあろうか」（『工藝』第49号、昭和10年）と、琉球の染物師が染めた紅型を讃えています。日本民藝館所蔵の紅型の多くは19世紀のものであり、昭和10年代に蒐集され、からくも戦禍をまぬがれたものです。

紅型は、15世紀初期に成立した琉球王国で、中国、日本、東南アジアなどの影響のもとに、18世紀に今見られるような染物になったと考えられています。紅型の「紅」は色を「型」は文様を意味します。

紅型には型紙を使う型染と、糊筒を使いフリーハンドで文様を描く筒描があります。型染は主に衣裳に施されました。型紙は小刀で突き彫りにします。大きな型紙で肩と裾に異なった大きな文様を染めたもの、中位の型紙を繰り返し送って染めたもの、二種類の型紙で小紋を重ね染めしたものなど様々です。染め方は、白生地に型紙を置き、その上から糯米と米糠で作った糊を塗って防染し、文様部分に顔料や染料で色を刷り込みます。同じ型紙で色違いも染めました。華やかなイメージのある紅型ですが、藍一色の清々しい藍型もあります。その素材は絹や木綿の他、苧麻や桐板など暑い沖縄に相応しい清涼感のあるものも多く見受けます。

文様は松竹梅をはじめ桜・桐・菖蒲・牡丹・鶴・雁・水鳥・鳳凰・風景など和風や中国風のものが多く、雪持ち笹や紅葉など南国沖縄では見られない題材が描かれるなど興味深いものです。高度な染技で、多くは表裏両面から染められています。黄や赤などの大柄の衣裳は王家や士族などの上流階級で使われ、庶民は祭りや祝いの限られた場で小さな柄を用いることが出来ました。

一方筒描は、風呂敷（ウチュクイ）や村芝居の幕に使われました。苧麻の生地に竹の弓を張り、筒に入れた糊で牡丹唐草や吉祥文様に輪郭を描いて防染し、文様に顔料で色差しし、地を藍で染めます。筒糊の力強い白く太い線は華やかな文様を引き立てています。

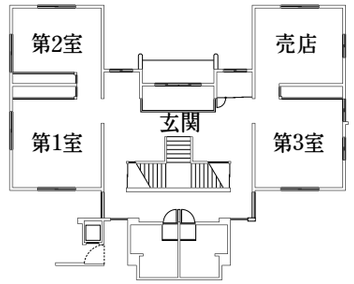
この度の特別展では二階大展示室とその周囲に「紅型」を展観していますが、損傷や退色のために普段は展示を控えているものまで特別に公開します。日本民藝館の紅型の世界をお楽しみください。

記念講演会　紅型の魅力　〔講師〕駒田佐久子（染色家）

10月27日(土) 18:00-19:30　会場・日本民藝館大展示室

料金・300円（入館料別）　定員・100名（要予約、TEL.03-3467-4527）

展示室 1 階



〔玄関〕沖縄の陶器と風呂敷（ウチュクイ）

九州と台湾の間にあって、独自の文化を花開かせた沖縄。筒描の技法で染められた色鮮やかな紅型の風呂敷や芝居幕をはじめ、那覇の壺屋で焼かれた、赤絵・白掛・三彩などで加飾された碗や皿や土瓶などを紹介します。

〔第 1 室〕日本の民窯

日本民藝館が所蔵する民窯の優品を中心に、約 50 点を展示紹介いたします。民窯とは民衆の実用品を焼いた窯のことで、藩窯などに対する言葉でもあります。展示品は九州諸窯・丹波・瀬戸など、日本各地の陶器で、主に江戸期以降に作られました。

〔第 1 室〕黒釉山茶家　苗代川
大正～昭和時代　高□ cm

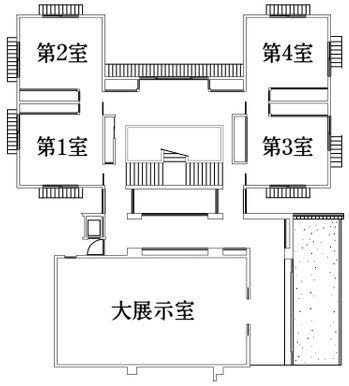
〔第 2 室〕版と型の美

生活の中での広範な需要に応えるべく、「版」と「型」は工芸の世界で重要な役割を果たしてきました。本展示では、仏版画をはじめとした摺物や、型染や合羽刷・型押によるものなど、版と型の技法によって生み出された様々な工芸品の美を紹介します。

〔第 3 室〕沖縄の織物

沖縄では、首里や八重山や宮古島など各地において特色ある織物が作られました。沖縄特有の芭蕉や苧麻・木綿・絹で織られた、色絣や紋織物や花織、そして手巾などを展示します。沖縄の風土にあった素材と模様、色彩をお楽しみください。

展示室 2 階



〔大展示室・本館及び新館回廊〕

沖縄復帰 40 年記念 特別公開　琉球の紅型

〔第 1 室〕朝鮮時代の諸工芸

朝鮮時代（1392-1910）に作られた陶磁器・木工品・金工品・石工品などには、材料の性質に逆らわない自由でおおらかな仕事ぶりが見て取れます。柳宗悦を魅了した、色や形や文様に表れた民族固有の造形美をご覧ください。

〔第 2 室〕民藝運動と沖縄

沖縄工芸調査に参加した民藝の同人たちは、沖縄文化から生み出された美しさに魅了され、風土・工芸の影響が色濃く感じられる作品を製作しました。それらの品々と、柳ら民藝運動の同人から多くの賞賛を受けた沖縄初の人間国宝、金城次郎の陶器作品等を紹介します。

〔第 3 室〕米浪コレクション　大津絵

米浪庄弌（1902-88）氏寄贈による大津絵は、極めて質の高いコレクションとして知られています。その中から、大津絵仏画の白眉であり、唯一の現存作である「地蔵尊」をはじめ、「文読む女」「槍持奴」など約 25 点を展観します。街道の民画「大津絵」の魅力をご堪能下さい。

〔第 4 室〕日本の金工

当館の金工分野では、鉄・真鍮・唐金（青銅・銅と錫による合金）など、身近な金属を中心とした実用品が主に収蔵されています。鉄瓶や釜・炉道具・錠前・矢立と呼ばれる携帯文具に、燭台や祭器などの仏具もあわせ金工品の魅力をご紹介いたします。

〔第 3 室〕大津絵　地蔵尊（部分）
江戸時代　17 世紀